

## 令和7年度 学校評価結果の分析

令和7年度学校評価へのご協力をいただき、ありがとうございました。

児童・教員・保護者の方からのそれぞれの結果を比較しました。

### Ⅰ 児童の様子について

- ・「学校生活を楽しく送っている」という設問に対して、児童・保護者共に90%以上が肯定的な回答をしています。低学年児童の7.7%中・高学年児童の6.3%、保護者の4.4%は否定的な回答をしています。

⇒WEB-QU（学級居心地度調査）の調査結果等を基に、細やかな対応を心がけ、今後も全児童が楽しい学校生活を送れることを目指していきます。

- ・「基本的な生活習慣が身に付いている」という設問に対して、保護者94.9%、教員87.2%、低学年児童87%・高学年児童89.1%が肯定的な回答をしています。否定的な回答は、教員12.9%、低学年児童7.7%、中・高学年児童6.3%であるのに対し、保護者は4.8%です。基本的な生活習慣を課題ととらえた教員が多く見られました。

⇒これまで以上に子供たちを丁寧に見取り指導を重ねていくほか、保護者会やお便りを通して保護者の皆様へ家庭での協力をお願いするなどして、啓発を心がけていきます。

- ・「友達と仲がよい」という設問に対して、児童・保護者共に90%以上が肯定的な回答をしています。低学年児童5.7%中・高学年児童4.1%、保護者3.8%は否定的な回答をしています。

⇒日々の様子の把握のほか、WEB-QU等を活用し、児童の様子を把握した上で、児童個々に応じた働きかけを心掛けていきます。

- ・「すすんであいさつをしている」という設問に対して、教員89.5%、低学年児童80.5%・高学年児童87%、保護者68.2%が肯定的な回答をしています。否定的な回答は、教員10.3%、低学年児童18.3%中・高学年児童10.2%と昨年度より減少していますが、保護者は28.6%と、低い評価となりました。

⇒あいさつをすることに対する児童の意識と実践力は高まっています。家庭や地域でも実践できるよう継続して指導していきます。

- ・「学年に応じた基礎学力を身に付けている」という設問に対して、「あてはまる」と肯定的に捉えている保護者は、86.6%、低学年児童91.3%中・高学年児童89.7%ですが、教員は66.6%と数値の差異が大きくなりました。

⇒教員の指導力の向上を図り、基礎基本の力の定着を図るための授業改善に努めるなどして、基礎力を更に高めていきます。

## 2 学習指導・生活指導・安全指導について

- ・「授業は子供にとって楽しく分かりやすい内容である」という設問に対して、保護者79.1%、低学年児童92%・高学年児童91.5%が肯定的な回答をしており、概ね満足のいく状況です。保護者は「わからない」が16.8%でした。
- ・「授業では子供同士の様々な意見交流がされている」「授業でのICT機器の利活用」「算数における少人数指導の効果」については、教員と児童の肯定的な意見が80%以上と多い一方で、保護者の「わからない」が20%程度と多く見られます。  
⇒保護者が「わからない」と答える割合が多いため、学校公開の機会以外にも情報を発信していく必要性があります。個別最適化した学びが実現されるよう、それぞれの方法と内容については更なる工夫をし、積極的に情報を発信していきます。
- ・「外国語に慣れ親しんでいる」という設問に対して、否定的な回答が教員2.6%とごく僅かであるのに対して、保護者14.3%、低学年児童19.5%中・高学年児童23.3%と大きな差が見られます。
- ・「健康教育」「安全防災教育」の実施状況については、児童・保護者共に90%以上が肯定的な回答をしていますが、保護者の「わからない」が一定数見られます。  
⇒保護者が「わからない」と答える割合が多いため、学校公開の機会以外にも積極的に情報を発信していきます。

## 3 家庭・地域との連携について

- ・「学校は学校の教育目標や学校経営方針、学校の取組を各種便りやホームページ、連絡ツールで伝えている。」という設問に対して、保護者の肯定的な回答が93.7%でした。  
⇒デジタル連絡ツール「tetoru」を有効に活用し情報を発信していることに効果があったと思われます。
- ・「教育活動は保護者や地域の声が反映されている」という設問に対して、保護者の8.5%が否定的、41%が「わからない」と回答しており、社会に開かれた教育課程の実現には課題があります。  
⇒学校評議委員会や学校評価などで得られた保護者や地域の方々の意見や要望を、学校の教育活動に生かしていきます。
- ・「学校は個人面談・通知表・個人連絡を通して、子供の様子を伝えている」という設問に対して、保護者の肯定的な回答が92.7%でした。  
⇒学校からの連絡や面談などの取組は納得していただけていると思われます。今後も児童の成長などの大切な情報をしっかり提供することを心がけていきます。
- ・「困ったときや悩んだときの相談体制が整っている」という設問に対して、低学年児童22.5%中・高学年児童27.8%が否定的な回答をします。  
⇒高学年になるほど、大人への相談をためらう場面が多くみられます。スクールカウンセラーによる相談体制を構築する他、学校に関わる全ての大人が相談を受けられることの周知を図るなどして、引き続き、子供たちに寄り添って丁寧な対応を心がけていきます。